

令和2年度

## 地域別主要施策 評価調書

1 県北地域	.....	P 2 ~ 3
2 県中地域	.....	P 4 ~ 5
3 県南地域	.....	P 6 ~ 7
4 会津地域	.....	P 8 ~ 9
5 南会津地域	.....	P10~11
6 相双地域	.....	P12~13
7 いわき地域	.....	P14~15

## 地域の名称 県北地域

### 目指す方向性

安全・安心な生活環境を回復し、幅広い産業集積と行政・教育・医療等の高次都市機能を生かして、医療関連分野をはじめ、本県経済をリードする産業の振興を図ります。

### 代表的な取組の進捗状況

#### ① 誰もが安心して生き生きと暮らせる生活圏の形成

##### 【復興公営住宅の整備】

- ◆ 県・市町村が主体となり復興公営住宅を整備しました。
  - ・ 平成 30 年度までに県北管内計 1,125 戸(全戸)完成済(福島市 475 戸、二本松市 346 戸、本宮市 61 戸、桑折町 64 戸、川俣町 120 戸、大玉村 59 戸)

##### 【健康の維持・増進】

- ◆ 将来にわたる県民の健康の維持、増進を図るため、県民健康調査を実施しています。
  - ・ 甲状腺検査 56,273 人受検、うち A 判定 99.4% (R 元年度末)

若宮団地



#### ② 地域を支える人づくり、多彩な交流の促進による地域の活性化

##### 【地域を支える人づくり】

- ◆ 医療関連実習生の受入、専門高校でのキャリア教育、サポート事業による地域活動団体への支援等により、地域を支える人材を育成しています。
  - ・ 保健福祉事務所での実習生受入 R 元：12 校、214 名
  - ・ 専門高校における地域産業連携事業実施 R 元：福島明成高校、福島工業高校

##### 【多彩な交流の促進】

- ◆ 定住・二地域居住等に関する相談に対応するとともに、首都圏におけるセミナーを開催しています。また農家民宿におけるインバウンド受入のためのモニターツアーや開業支援のための個別相談会を開催しています。
  - ・ 農家民宿数：44 軒 (R 元年度末)

農家民宿モニターツアー



#### ③ 地域産業の再生と新たな社会を拓く活力ある産業の創出

##### 【農産物の安全性・魅力の理解促進】

- ◆ 放射性物質検査結果等を消費者がわかりやすく確認できるシステムを運用し、産地情報の「見える化」を推進するとともに、「おいしいふくしまいただきます！」キャンペーン等により農産物のおいしさを伝える取組を推進しています。
  - ・ 東京都中央卸売市場における福島県産桃の平均単価(1kg)震災前 5 年間平均：401 円、R 元：502 円(+25.2%)

##### 【地域産業の振興】

- ◆ 将来性と成長性が見込めるとともに、地域経済への波及と地域振興への貢献が期待される県内に立地する企業に対し、機械設備等の設置に係る費用を支援しています。

「おいしいふくしまいただきます！」  
キャンペーン



#### ④ 災害に強く、安全で安心な生活を支える基盤の整備

##### 【道路整備】

◆主要幹線の国道 114 号、115 号、349 号や県道原町川俣線等の整備を進めるとともに、県北地域と浜通りを結び、本県復興の基軸となる東北中央自動車道（相馬福島間、福島米沢間）の整備を促進しています。

- ・国道 114 号（川俣町山木屋 1・2・3 工区）  
用地買収・トンネル・橋梁上下部工・改良舗装工

- ・東北中央自動車道（相馬福島間）  
相馬 IC～相馬山上 IC 間：R 元年 12 月 22 日供用開始

##### 【防災体制の充実・強化】

◆令和元年 10 月の台風第 19 号について、管内 8 市町村に情報連絡員（県リエゾン）を派遣し、被害状況等の情報収集や県情報の提供に努めた。 ・派遣実績 延 215 名

国道 114 号山木屋 1 工区の整備



### 地域の主な課題

### 地域懇談会(地域住民)の意見

### 今後の方向性

#### 1 安全で安心な暮らしの確保

- 安心して子どもを生き育てることができ、生涯にわたり心身ともに健康で生活できる環境づくりが求められている。
- 県産農産物や加工食品に対する安全・安心が求められている。

- 親の心のケアや相談窓口のシステム化が必要である。
- お年寄りや子どもたちはもちろん、働き盛りの人たちの健康診断を徹底してほしい。
- 県産農産物等への風評は依然大きく、常態化、常識化、固定化されつつある。

- 市町村が設置する子育て世代包括支援センターの機能充実への支援や専門家による相談等に取り組む。
- 市町村や企業等と連携しながら、食生活や運動、検診受診の大切さについての普及啓発、人材の養成に取り組む。
- ふくしま県 GAP やふくしま HACCP の推進により、食の安全の確保と風評払拭に取り組む。

#### 2 人口減少社会における地域の維持・活性化

- 人口の減少や高齢化の進行により、地域活力の低下と地域コミュニティの維持が課題となっている。
- 自然・食・温泉などの魅力の発信による観光・交流人口の拡大等が求められている。

- 過疎・中山間地域では、1人の若者が集落に入ることによって、どれ程地域の活性化に繋がるかを実感しており、人の交流、移住定住の促進にしっかり取り組んでほしい。
- 福島県を理解してもらう、関心を持ってもらうという意味で、教育旅行の誘致が大切と考える。

- 市町村や民間団体等と連携しながら、住民が主役となる個性と魅力ある地域づくりの支援に取り組む。
- 移住相談会や体験ツアーの実施、地域間交流による関係人口の増加に取り組む。
- SNS や動画による情報発信、農産物の収穫やイベント参加などの体験メニューの充実による着地型観光を推進する。

#### 3 地域産業の振興と人材の育成・確保

- 幅広い産業で人材が不足しており、その育成・確保が課題となっている。
- 農林業における生産者の意欲を維持するとともに、担い手の育成や収益性の高い経営・生産方式の導入、高付加価値化が求められている。

- 企業誘致のみならず、地域の中で新たに雇用を生み出すことも重要であり、地場産業の振興が必要である。
- 6次化に対する支援について、現在農業をしている方や新規就農者の将来に繋がるものにしてほしい。

- 小学校段階からの継続的なキャリア教育を進めるとともに、高校生及び保護者向けに企業情報を発信することにより、地元への就職促進を図る。
- 新規就農者の技術習得や農地確保等を地域全体で支援する体制づくりやスマート農業、地域産業の6次化による所得の向上を図る。

## 地域の名称 県 中 地 域

### 目指す方向性

地域的優位性と農業・工業・商業の高いポテンシャルを生かし、再生可能エネルギー、医療機器分野等の研究拠点や関連産業の集積、農林水産業の高付加価値化を進め、本県経済を牽引します。

### 代表的な取組の進捗状況

#### ①震災・原子力災害の克服、安全で安心して暮らせる地域社会の形成

##### 【被災者の健康サポート】

- ◆ 被災者の健康維持増進を図るため、健康支援活動を行っています。(R元実績)・個別支援186世帯等

##### 【道路ネットワークの構築】

- ◆ 災害に強い道路ネットワーク構築を実現するため、道路の改築による機能強化を図っています。  
(R元実績)・主要地方道郡山湖南線(三森I工区:郡山市)橋梁上部工等

##### 【子どもたちの育成】

- ◆ 豊かな人間性や生きる力の育成のため、郷土の良さを発信する活動や自然体験活動を支援しています。  
(R元実績)・チャレンジ!子どもがふみだす体験活動応援事業126件

##### 【健康長寿の推進】

- ◆ 健康長寿県を目指し、地域の健康づくりを推進する健康サポーターを育成しています。(R元実績)338名
- ◆ 減塩やバランスのよい食事による健康づくりを推進しています。  
(R元実績)・食育キャンペーン3回187名参加等

道路(橋梁)工事



食育キャンペーン(田村市)



#### ②未来を拓き、地域の活力を支える産業の集積と高度化の推進

##### 【産業の育成・集積と高度化支援】

- ◆ 産総研や県内企業と共同で研究開発等を行い、再生可能エネルギー関連産業等の育成・集積を推進しています。(R元実績)AI・IoTに関する技術指導5回実施等
- ◆ 製造技術高度化研究会等を運営し、企業間ネットワーク構築や販路拡大等を支援しています。  
(R元実績)研究会、セミナー、実技講習、視察研修等27回実施
- ◆ 産業活性化促進員が中小企業を訪問し、課題把握と助言支援を行っています。(R元実績)企業訪問延べ560件

##### 【地域産業6次化の推進】

- ◆ 地域産業6次化ネットワークを運営し、事業者の商品開発・ブラッシュアップや販売促進活動の支援を行うとともに、地域特産物の特徴を生かせる加工技術や品質保持技術の開発及び支援に取り組んでいます。(R元実績)・交流会159名参加、新商品の開発2品目等

地域産業6次化の推進



#### ③風評の払しょくと観光の推進、地域資源の活用による交流人口の拡大

##### 【広域観光の推進】

- ◆ 管内市町村や関係団体等との連携の下、首都圏の観光・物産イベントへの出展や、ロードバイク(自転車)を活用した広域観光の推進に取り組んでいます。  
(R元実績)・ロードバイク事業・動画再生数・約15万回  
・観光・物産イベント・来場者数計2万人

ロードバイクPR動画



#### ④生活基盤の充実と「地域の宝」を生かした過疎・中山間地域の振興

##### 【地域づくり活動への支援】

- ◆ 地域間交流や地域産業6次化等の取組を支援しています。(R元実績)・地域創生総合支援事業56件採択

##### 【移住・定住、グリーン・ツーリズムの推進】

- ◆ 首都圏でのセミナー開催等による移住検討者への相談対応・情報発信や、管内の都市農村交流を促進する取組を行っています。(R元実績)・セミナー2回12名参加、グリーン・ツーリズムネットワーク交流会19名参加、親子農山村体験交流バスツアー2回73名参加等

地域づくり活動支援



#### ⑤豊かな自然環境と調和のとれた地域社会の形成

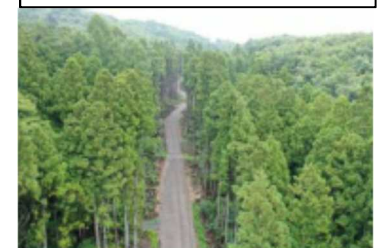
##### 【環境と共生する農業の推進】

- ◆ エコファーマーの認定を推進し、特別栽培や有機農業の担い手支援を進めています。(R元実績)エコファーマー認定数 新規73件・更新434件

##### 【森林の整備・再生】

- ◆ 林道整備や植栽・間伐等を実施し、森林の整備・再生を図っています。(R元実績)・森林管理道1路線、林業専用道3路線の整備を実施

林業専用道の整備



### 地域の主な課題

### 地域懇談会(地域住民)の意見

### 今後の方向性

#### 1 安心して豊かに暮らせる地域づくり

- ・ 近年、台風やゲリラ豪雨等により、道路・河川施設等で大きな災害が発生している。
- ・ 高齢化が急速に進んでおり、認知症の高齢者も増えてきている。  
2025年問題や2040年問題などで医療・介護需要が増える。

- ・ 短時間で大雨が降るなど、今までとは異なる状況に対応し、道路・河川整備などの国土の強靱化が急務となっている。
- ・ 高齢化が進む一方で、支える世代が少なくなることから、地域包括ケアシステムの構築や、健康長寿への取組がますます重要となる。

- ・ 国土強靱化に向け、災害に強い道路ネットワークの構築、河川・橋梁施設の改善や長寿命化を図ります。
- ・ 健康づくりを推進するとともに、誰もが住み慣れた地域で暮らし続けられるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援が包括された地域包括ケアシステムの構築を支援します。

#### 2 観光交流・移住の促進と産業活性化、風評対策

- ・ 福島に魅力を感じる人々が増えなければ、産業も含め全てにおいて、この先の進展はない。
- ・ 地域の産業・生活基盤の維持には、地域人材の育成が課題である。
- ・ 農業は、担い手不足であり、耕作放棄地等も増えている。

- ・ 移住の促進に向け、魅力ある地域づくりを具現化し、福島の良さを外部に発信する必要がある。
- ・ 次代を担う子どもたちが地元の様々な体験活動を通じて、地元の魅力を知ることが大切である。
- ・ 農業の担い手への支援や耕作放棄地の解消等に向けた支援が必要である。

- ・ 魅力ある地域づくり活動を支援するとともに、地域の魅力をPRし、移住を促進します。
- ・ 子どもたちの体験活動など、地域を担う次世代の人材育成の取組を支援します。
- ・ 幅広い担い手の育成・確保や担い手への農地集積を進めるとともに、日本型直接支払制度を活用して耕作放棄地の解消や発生防止に努めます。

## 地域名称 県南地域

### 目指す 方向性

首都圏に隣接する地理的条件・交通条件を生かし、県全体の復興を牽引する地域づくりを進めていきます。

### 代表的な取組の進捗状況

#### ① 新たな時代を牽引する地域産業の振興

##### 【企業立地の促進】

- ◆ 令和元年の工場の新增設は、工場設置届出件数が7件となりました。令和元年10月には「工業の森・新白河B工区」にMGCファーマックス㈱の完全人工光型植物工場が竣工するなど、新産業を中心とする企業誘致及び集積が進んでいます。

また、アクセス道路となる国道294号豊地工区を始め、同白河バイパスの整備を進めています。

##### 【雇用の創出】

- ◆ 企業立地補助金による工場の新增設等への支援や雇用支援助成金により、復興に取り組む企業を支援します。

- ・ふくしま産業復興企業立地補助金(第1次～第12次指定累計) : 69社 新規雇用創出731人
- ・ふくしま産業復興雇用支援助成金(H23～R元年度累計) : 830社 新規雇用創出3,409人

工業の森・新白河B工区



#### ② 地域の持続可能な発展を担う人づくり

##### 【家庭教育支援】

- ◆ 親子に豊かな体験や親の学びのための講座やプログラムを提供し、家族や地域の絆を深めるとともに子どもたちの生活習慣の改善と家庭の教育力の向上を図る事業を実施しています。

(11団体 約900名参加)

##### 【産業人材育成】

- ◆ 企業の産業人材確保を図るため、インターンシップに参加する県外の学生や受け入れる企業に対して支援します。また、首都圏等の大学に進学している福島県出身者等と県南地方企業との交流の場を設け、就職の促進につなげます。

- ・インターンシップ促進支援助成: 学生6件、企業17件
- ・学生と県南地方企業の交流会等(2回、参加者のべ82名)

- ◆ 農業総合センター農業短期大学校において、地域農業の担い手や農業を志す青年、6次化に取り組む農業者等を対象に、専門的技術や経営管理能力の向上を目指した教育・研修を実施し、即戦力として活躍できる人材を育成しています。

- ・学生数1学年53名、2学年47名
  - ・研修受講者数(就農・農業機械・農産加工)のべ671名
  - ・GAP認証の取得(JGAP米(玄米)、トマト 平成30年5月7日、ぶどう12月25日)
- (参考:管内第三者認証GAP等取得件数45件(令和2年6月8日現在、県調べ))

子育て講演会



学生と企業の交流会



### ③ 地域資源を生かした交流の促進

#### 【観光交流、定住・二地域居住の推進】

- ◆ 交流人口の拡大や定住・二地域居住を推進するため、関係団体と連携し、県内外で観光PRや県産農産物の販売を行うとともに、セミナー開催や現地案内等により首都圏等の移住希望者の受け入れ強化に取り組んでいます。
- ・『秋のふくしま』うまいもの市(東京都荒川区)(R元年10月19日-20日)
- ・移住相談窓口「ラクラスしらかわ」を運営(相談件数190件)

『秋のふくしま』うまいもの市



#### 【地域間交流の促進】

- ◆ 交流人口の拡大や地域資源を活用した持続的な地域づくりを目指し、社会資本の整備を通じて、ソフト・ハード両面から地域の取組を支援しております。
- ・棚倉町花園周辺地区ポケットパーク整備完了(R1年度)
- ・国道289号(渡瀬BP・青生野工区)、国道349号(下関2・3工区)の道路改良工を実施中

#### 【都市農村交流の促進】

- ◆ 首都圏等の住民、教育関係者、旅行代理店等へのPRを行うことにより、農業体験等の受入れを促進するとともに、農家民宿の開設に向けた支援を行うなど、受入れ体制の強化を図っています。(R元年度受入数 4,272人)

### ④ 人々がいきいきと心豊かに暮らせる安全で安心な源流の里づくり

#### 【地域医療の担い手育成】

- ◆ 将来、地域医療に従事する医師等を確保するため、小学生とその親を対象とした医療現場等の学習会や、県立医大生等を対象とした地域住民との交流事業等を実施しています。(令和元年度 親子学習会3組6名、地域医療体験研修14名参加)

病院での縫合体験



#### 【防災体制の充実・強化】

- ◆ 大規模災害発生時に被災市町村への応援協力体制を強化するため、情報連絡員(リエゾン)の派遣体制を整備するとともに、地域防災力の向上を図るため、中核的存在となる消防団員の確保に努めています。(県南地方総合防災訓練を中島村で実施(R元年))

## 地域の主な課題

## 地域懇談会(地域住民)の意見

## 今後の方向性

### 1 産業人材の育成・確保

・ 少子高齢化に伴い、様々な産業において担い手の減少や高齢化が進んでいる。

・ ビジネス上、女性目線で(商品やサービスを)考えることは大切であることから、女性の活躍の場づくりは重要。  
・ 誘致企業も、地域に人材が確保されているかどうかを重視している。

・ 様々な職業で女性が活躍するための環境づくりに取り組んでいくほか、様々な手法で企業のPRを行い、地域の企業を選んでもらうきっかけ作りを進めます。

### 2 魅力ある学校づくり・家庭教育の支援

・ 子育て世代の保護者が少ないため、相談できる相手が少なく、家庭の教育力が低下している。  
・ 児童、生徒数の減少により、学校の規模が縮小してきており、学校の魅力化を図っていく必要がある。

・ 親がコミュニケーションのスキルを身につけ、子と接することが重要である。  
・ 後継者育成のため地域の小学校でまつりを勉強するなど、神社も地域コミュニティのために活動している。

・ SNS等も活用しながら、保護者を支援するボランティア団体やプログラム等を周知し、家庭教育の向上を図ります。  
・ 学校の課題を明確にし、学校、家庭、地域の関わりを強めながら特色ある学校づくりに取り組めます。

地域別の主要施策 施策評価調書

地域の名称 **会 津 地 域**

**目指す方向性** 地域特性を生かした交流促進、産業振興を図るとともに、過疎・中山間地域の活力回復や安全・安心の確保に努めます。

代表的な取組の進捗状況

① 交流促進に向けた受入環境の整備

【会津の魅力発信による観光交流の推進】

- ◆教育旅行の再興のため、地元関係者の「学べる磐梯山サポーター」の認証、魅力情報発信及び誘致PRキャラバンを推進しています。
- ・誘致PRキャラバン 隣県・関東エリア 147箇所 (R1実績)

【広域的な交通ネットワークの形成】

- ◆会津地域の観光資源を生かした交流人口の拡大を図るため、会津縦貫道・国道118号等の整備に取り組んでいます。

【食の安全・安心の情報発信】

- ◆食の安全性のPR・消費拡大キャンペーンや販売力強化支援を実施しています。
- ・道の駅や観光施設等で計3回実施 (R1実績)

教育旅行「学べる磐梯山サポーター」の認証



おいしい ふくしま いただきます! キャンペーン



② 過疎・中山間地域の活力回復に向けた環境の整備

【定住・二地域居住の推進】

- ◆会津・南会津地域に地域ディレクターを配置し、会津ならではの新しい働き方・暮らし方の現地体験プログラムの実践など、移住促進を強化しています。
- ・参加者数 延べ51人  
うち移住者1人・移住予定11人・移住検討25人 (R1実績)

【地域の特色を生かした所得確保のための取組支援】

- ◆伝統野菜「おたねにんじん」の認知度向上と消費の拡大を図るため、PR販売やレシピ考案、飲食店メニュー化、学校給食での提供などに取り組んでいます。
- ・学校給食での提供 26校・約6,800食 (R1実績)

【生活道路及び河川整備の取組】

- ◆過疎・中山間地域の生活を支える道路整備や、平成23年の新潟・福島豪雨により被害を受けた只見川等の河川整備を進めています。
- ・R1年度 博士峠バイパストンネル工事・道路改良工事の推進
- ・R1.10月 本名トンネル貫通 (R1実績)

ふくしまチャレンジライフ 推進モデル事業



おたねにんじん利用促進



③ 安全・安心な生活を支える基盤の整備

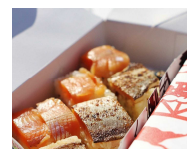
【JR只見線の早期全線復旧に向けた取組】

- ◆只見線の魅力発信及び利用促進に向け、金山町の「姫ます寿司」を名物弁当として復活させるなど、地域資源の活用と地域の活性化を進めています。

【地域医療の充実にに向けた取組】

- ◆会津医療センターでは、へき地医療拠点センター病院として、地域医療機関と連携・協力のもと医師派遣を実施しています。
- ・会津及び南会津管内26医療機関へ医師派遣 (R1実績)
- ◆地域医療に関心のある医学生等を対象に、地域住民との交流も含めた体験研修など、担い手育成を行っています。
- ・研修参加者数 (医学生13名、看護学生10名) (R1実績)

姫ます寿司の復活



地域医療体験研修





#### ④ 地域経済を支える産業の振興・集積

##### 【企業連携等による産業集積のための基盤づくりの推進】

- ◆地元企業と連携した高校生及び保護者向け合同説明会を実施するなど、地元就職促進ための取り組みを推進しています。
- ◆会津大学を中核にスマートシティ、ロボット関連など様々な企業との産学官連携を図り、会津地域のICT産業の振興に向けて、起業支援やIT人材の県内定着などを促進しています。
  - ・「スマートシティ AiCT」入居企業 21社 (R1実績)
  - ・会津大学「ロボット技術研究開発」参加企業 20社 (R1実績)

##### 【安全・安心な会津産農産物の生産販売推進】

- ◆消費者の信頼回復や産地ブランドの再興のため、農業生産工程管理 (GAP) の導入支援に取り組んでいます。
  - ・第三者認証 GAP の取得件数 74件 (R1実績)

##### 【地域産業や新技術導入等に対応できる人材の育成】

- ◆A I ・ I ・ O ・ T 技術を活用して福島の魅力を発信できる人材育成や、専門高校生の実技指導による小・中学生の実習体験の実施など、次世代の担い手育成に取り組んでいます。

高校生・保護者向け  
合同説明会



専門高校生による  
小学生への実技指導



#### ⑤ 自然環境、景観等を後世に伝える取組

##### 【磐梯猪苗代地域等の自然環境、景観保全等の取組】

- ◆磐梯山ジオパークの活用を推進するとともに、地域ボランティアを中心とした猪苗代湖の水環境保全に取り組んでいます。
    - ・磐梯山ジオパーク出前講座・授業等参加者数 延べ 933人 (R1実績)
  - ◆森林環境保全のため、森林環境教育や県産木材の利活用促進、伝統文化や技術の継承などに取り組んでいます。
- ##### 【歴史的な町並みの保全と活用】
- ◆歴史情緒あふれる地域づくりのモデル創出を支援しています。
    - ・会津若松市 板塀化、ファサード改修事業 3カ所等 (R1実績)

磐梯山ジオパーク  
モニターツアー



#### ※ 会津地域の広域連携の取組

- ◆「会津地域課題解決連携推進会議」を令和元年12月に立ち上げ、市町村、民間、県等が連携して、人口減少対策や地域産業の活性化、デジタル化などに取り組むこととしています。

### 地域の主な課題

### 地域懇談会(地域住民) の意見

### 今後の方向性

#### 1 人口減少・高齢化の進展を踏まえた会津地域の活性化

地域の魅力を高めるとともに、人口減少、若者流出や高齢化等の複合する課題への対応、また移住定住の促進など、関係機関が一体となって取り組む必要があります。

・廃校や空き施設等地域資源を活用した地域づくりが必要  
・持続可能な社会づくりや防災や減災の視点が重要  
・移住定住促進はニーズとターゲットに合った取組が必要

コロナ禍での新たな視点で、地域の魅力や地域資源を活かしながら、若者や移住者が活躍できる仕組みづくりや環境整備、人材育成などに取り組み、持続可能な地域づくりを目指していきます。

#### 2 地域産業の振興と若者の雇用創出

地域経済を支える産業集積や6次化への支援、人材育成に取り組むとともに、コロナ禍での地域経済の回復、地元企業の発展と雇用の確保・創出に向けて、一層推進していく必要があります。

・異業種や企業間の技術連携など新たな産業創出が必要  
・デジタル化への対応などスピード感を持った取組が必要  
・地方で暮らし、就職、転職、起業できる受け皿作りが必要

新たな産業創出や地域産業の担い手育成に向け、幅広い産学官連携を支援するとともに、デジタル化や、新しい暮らし方・働き方の実現などに取り組み、地域産業の振興を進めていきます。

#### 3 会津の観光振興

風評・風化対策を継続するとともに、教育旅行の再生や新型コロナの影響からの観光回復のため、新しい生活様式に対応した会津の地域資源を活かした観光振興に取り組む必要があります。

・会津の魅力発信とともに、安全安心の情報発信も大切  
・異なる文化や風習への理解や交流など多文化共生が必要  
・新型コロナの正しい情報と知識に基づいて対応することが大切

コロナ禍での新しい観光・交流への取組や安全安心な受入体制づくりを進めながら、魅力発信とともに、会津地域ならではの魅力を活かした観光振興に取り組み、地域活性化を目指していきます。

地域の名称 **南 会 津 地 域**

目指す  
方向性

豊かな自然や伝統文化を保全・継承するとともに、地域産業の振興や特色ある地域資源を生かした観光・交流人口の拡大を図り、活力ある地域づくりを進めます。

代表的な取組の進捗状況

① 地域の特性を生かした産業の振興と再生可能エネルギーの導入促進

【農産物の地域産業 6 次化】

◆講習会の開催などにより、地域の農産物を生かした 6 次化の商品づくりを進めるとともに、首都圏等での物産展を開催するなど、商品開発や販路の拡大に取り組んでいます。

たのせ地区特産品開発講習会の様子



【新規就農者の育成・確保】

◆南郷トマトなどを栽培する新規就農者に対し、給付金や技術指導による支援を行っています。  
(新規就農者 令和元年度 15 人)

【管内立地企業に対する支援】

◆管内ものづくり企業を訪問し景況等の情報収集を行うとともに、国や県の支援制度等について情報提供に努めています。また、町村や高校の進路指導担当者と情報交換を行い、企業の人材確保に繋がる取組や高校生の地元企業への就労を支援しています。

② 地域資源を活用した観光・交流人口の拡大

【地域の魅力を生かした教育旅行の推進】

◆尾瀬や只見ユネスコエコパークなどの自然資源を活用し、南会津地域で自然環境学習を行う学校に対しバス代等を助成するほか、首都圏等の学校や旅行代理店を訪問するキャラバンを実施し、教育旅行の誘致を行っています。

(令和元年度助成実績：46 校 6,037 名)

教育旅行（農業体験）の様子



【圏域を越えた広域連携交流】

◆首都圏等における観光物産イベントへ出展し、観光、物産品等の情報を積極的に発信したほか、現在整備中の国道 289 号八十里越で直結する新潟県三条地域と連携した情報発信を行うなど、観光交流の促進を図っています。

◆広域的な道路網を構築するため、国道 118 号小沼崎バイパス、国道 121 号下郷田島バイパスなど、会津縦貫南道路の整備を推進しています。

③ 社会生活基盤の維持・整備による安全・安心な暮らしの確保

【関東・東北豪雨からの復旧・復興】

◆平成 27 年 9 月の関東・東北豪雨により被災した河川について復旧に取り組んでいます。

【JR 只見線の早期全線復旧への支援】

◆JR 只見線の早期全線復旧に向けて、只見線活用計画に基づき、只見線ツアーの実施や関係機関と連携して情報発信を行うなど、只見線活用促進の取組を支援しています。

JR 只見線活用促進事業  
「JR 只見線で行く!只見ふるさと  
の雪まつり満喫ツアー」



#### ④ 豊かな自然環境や伝統文化など地域の宝の保全・継承

##### 【尾瀬の保護等】

- ◆尾瀬におけるニホンジカによるニッコウキスゲ等の食害防止を図るため、会津森林管理署南会津支署が行う防鹿柵の設置・撤去作業について、関係機関等と連携し活動を支援しています。

##### 【地域を愛する人材の育成】

- ◆過疎・高齢化などの地域課題を意識した「ふるさと教育」に重点的に取り組む小中高等学校を支援し、地域を担う人材の育成を図っています。

##### 【伝統文化の継承】

- ◆国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている下郷町大内宿における茶会の実施や、南会津町南郷地域の南山木地師の伝統の復活と技術の継承を目指す取組など、伝統文化を次の世代に伝えていく取組を支援しています。

ふるさと教育  
(田島第二小学校 豆腐作り)



### 地域の主な課題

### 地域懇談会(地域住民) の意見

### 今後の方向性

#### 1 人口減少対策

過疎・高齢化の進行に伴う人口減少を食い止めるため、地域の特性を生かした産業の振興や安全・安心な暮らしの確保を進め、域外への人口流出に歯止めをかけるとともに、地域の担い手となる人材確保に向け、移住希望者への情報発信や受入体制を強化するなど、環境整備を図っていく必要があります。

- ・移住者と地元住民の橋渡しが重要。
- ・地域の伝統文化・芸能の継承の取組をきっかけに、若者が定着してほしい。
- ・空き家がかかり多くなっている。
- ・コロナ禍の中新たな販売方法の確立に取組む必要がある。
- ・高齢化で跡継ぎや担い手不足により耕作放棄地が目立つほか、林業労働者も減っている。
- ・地方公共団体が地域材活用のモデルとなり木材産業を支えていくべき。
- ・南会津病院の医療体制は維持すべき。

- ・地域外に出て行った方のUターンや新たな移住の促進に向け、生活環境の整備と情報発信に努めます。
- ・空き家などの遊休施設を活用し、仕事や住まいを確保する取組を支援します。
- ・新規就農者を呼び込むため、就農希望者に対する農林業体験の場の提供や就業支援等に取り組みます。
- ・森林資源を循環利用し、地域雇用を図りながら林業の成長産業化の実現を目指します。
- ・地域唯一の南会津病院について、今後も良質で安全な医療を提供できるよう努めます。

#### 2 地域資源を活用した観光・交流人口の拡大

地域の活力低下を食い止めるため、地域の魅力となる資源の掘り起こしや磨き上げを行うとともに、効果的かつ継続的に情報発信し、観光誘客を促進するなど、交流人口の拡大を図っていく必要があります。

- ・南会津の大自然を有効的に活用し、身近に感じてもらえるようなPRが必要。
- ・首都圏での観光PRフェアは集客があり良い取組。SNSの活用と併せて継続してほしい。
- ・継続的に地域に来てもらい、第二のふるさとのように感じてもらいたい。
- ・首都圏へ鉄道で直結している点などは地域の強み。通過点とならないよう、魅力的な事業に取り組むべき。

- ・豊かな自然環境や伝統文化などをいかし、地域資源の磨き上げや新たな魅力づくりを進めながら、おもてなしの向上による受入体制の強化と更なる情報発信に努めます。
- ・関係団体との連携の下、幹線道路や鉄道等をいかした広域的な観光誘客を推進するなど、交流人口の拡大に取り組みます。

地域の名称 **相 双 地 域**

目指す  
方向性

安全で安心な暮らしの再構築や、原子力に依存しない産業への振興、農林水産業の再生など、津波と原子力災害を乗り越え、復興へ向けた新たな人づくりと地域づくりを進めます。

代表的な取組の進捗状況

① 避難者に寄り添った生活の再建

【復興公営住宅の整備に係る取組状況】

- ◆ 第一次計画、第二次計画あわせて4,890戸の整備計画を策定し、令和2年7月末現在で計4,767戸が完成。相双管内においては985戸全ての整備が完了し、入居開始済みとなっています。  
(これまでの実績：相双管内の復興公営住宅整備数)  
・南相馬市 927戸、広野町 58戸

復興公営住宅（南相馬市）



② 安全で安心な暮らしを支える社会の再構築

【医療・福祉等人材の確保・育成に係る取組状況】

- ◆ 避難地域内での医療機関再開及び開設等の支援を行うほか、医学部生を対象に地域医療体験研修事業を実施し、医療提供体制の再構築と地域医療の担い手の育成を図っていきます。
- ◆ 介護福祉人材確保のため、住居支援や就労支援を行い、人材育成・確保定着を図っていきます。  
(これまでの実績：介護福祉人材)  
・県外から相双地域等へ12名の就労を支援【R1実績】

地域医療体験研修事業



③ 地域の復興を加速するインフラ復旧・整備

【インフラ整備に係る取組状況】

- ◆ 相双地域から周辺の主要都市や高速道路までを連結する幹線道路等の整備推進により、地域連携や防災機能の強化を図っていきます。  
(これまでの実績：インフラ整備)  
・相馬福島道路 相馬IC～相馬山上IC間開通(令和元年12月22日)  
・常磐道 常磐双葉IC開通(令和2年3月7日)  
・JR常磐線全線再開通(令和2年3月14日)

常磐双葉IC  
令和2年3月7日開通



④ 原子力に依存しない産業の振興

【福島イノベーション・コースト構想に係る取組状況】

- ◆ 浜通り地方の地域経済の再生と雇用の回復を目指し、国、県、市町村が一体となって取り組んでいます。  
(これまでの実績：施設整備)  
・廃炉国際共同センター国際共同研究棟開所(平成29年4月23日)  
・大熊分析・研究センター施設管理棟開所(平成30年3月15日)  
・福島ロボットテストフィールド全面開所(令和2年3月31日)

ロボットテストフィールド  
(南相馬市・浪江町)



## ⑤ 地域特性を生かした農林水産業と過疎・中山間地域の再生

### 【農林水産物の安全性発信、風評払拭に係る取組状況】

- ◆ 農林水産業の復興・再生を加速させるため「ふくしまから はじめよう。「食」と「ふるさと」新生運動相双地方推進本部」を立ち上げ、農林水産物の安全性のPRや消費拡大イベントを開催した。

(これまでの実績)

- ・おいしい ふくしま いただきます！キャンペーン[R1:2回開催]
- ・9市町村、13団体のキャンペーン・PR活動を支援

おいしい ふくしま いただきます！  
キャンペーン(ふたばワールドinJヴィレッジ)



## ⑥ 復興に向けた新たな人づくり・地域づくり

### 【コミュニティの維持・再生に係る取組状況】

- ◆ 市町村や民間団体等が行う震災等からの復興再生、地域づくり活動や、絆の維持に向けた取組について支援を行っています。

(これまでの実績)

- ・令和元年度地域活動事業補助実績  
(25件、補助金額 69,068千円)

ふたばワールド 2019inJヴィレッジ



## 地域の主な課題

## 地域懇談会(地域住民)の意見

## 今後の方向性

### 1 雇用人材の確保

・被災後の労働人口の減少に対し、地元学生向けの職業体験や就農をはじめとした各種研修への支援を行うほか、外国人労働者の雇用に取り組み、雇用人材を確保していく必要があります。

・RTFを活用し、官民・地域が一体となってイノベーション・コスト構想を推進する必要がある。  
・人が地元に戻ってくる仕組みや人材の確保が有効に機能する必要がある。

・市町村や関係機関との連携によりイノベーション・コスト構想を推進し雇用人材確保に取り組みます。  
・地元へのUターン者や外国人の雇用を推進し、関係機関と連携して支援に取り組んでいきます。

### 2 人口減少対策・移住等の推進

・被災後の急激な人口減少に対して、子育て支援や移住等の推進をしていく必要があります。

・コロナ禍を契機とし、人の動きが変わりつつあることから、近県からのリピーター獲得等により移住を推進する必要がある。  
・地域医療の充実が女性や子育て世代の移住につながる。

・県外に向けて、相双地域の魅力や復興の状況を積極的に発信するとともに、地域医療の充実や交流・関係人口拡大のための取組を推進し、地域の活性化や移住の促進を図っていきます。

地域の名称 **いわき地域**

目指す  
方向性

地震、津波、原子力発電所事故による複合災害を克服し、安全・安心に暮らせるとともに、浜通りの復興拠点地域として、活力に満ちた地域の形成を目指します。

代表的な取組の進捗状況

① 安全で安心な地域社会の形成

【災害に強いまちづくり】

- ◆沿岸部の復旧工事が完了しました。(H30 年度)
  - ・海岸堤防整備：100%完成、水門設置：全 4 カ所完成

【医療・福祉サービスの充実】

- ◆地域の中核となる新病院の施設整備の支援を実施しました。
  - ・いわき市医療センター（旧総合磐城共立病院）

② 産業の再生及び創出、技術力の強化

【福島イノベーション・コースト構想】

- ◆国や事業者等と連携し、風力発電の導入と関連産業の集積等を小名浜港を活用して推進しています。
- ◆福島イノベーション・コースト構想の実現に向けたビジネスマッチングイベントの開催や、各種イベントを通じたPRを行っています。

【農林水産物の風評対策】

- ◆各種モニタリング検査を継続的に実施するとともに、第三者認証GAP取得を推進しています。
  - ・米 436, 121 点、穀類（米を除く）・野菜・果実・山菜・きのこ 267 点、海産魚介類 2, 401 検体について、基準値超過は発生しませんでした（R1 年度実績）。
  - ・いわき市の認証 GAP 取得事業者 第三者認証 GAP 18 事業者、FGAP 10 事業者（R2. 3 現在）
- ◆水産エコラベルの取得を支援しています。
  - ・生産段階認証 14 件、流通段階認証 7 件（R2. 3 現在）
- ◆6次化推進を含めた各種イベントを通し、正確な情報発信と安全・安心のPRに努めています。
  - ・冬のいわきを堪能せよ！農村体験ツアー、参加者 首都圏等大学生 計 19 名（R1 年度実績）
  - ・第 3 回高校生レシピコンテスト、応募 9 校 55 作品・実食キャンペーン等（R1 年度実績）

冬のいわきを堪能せよ！農村体験ツアー（R2.1.11～12）



③ 多様で活発な交流の促進

【観光復興と風評払しょくのための情報発信】

- ◆観光PRイベントや視察団体の受入により、観光交流人口の拡大と風評払しょくに取り組んでいます。
  - ・視察受入実績：402 団体、9, 057 名（R2. 3 現在）

【小名浜港等の整備】

- ◆物流・産業・観光交流の拠点となる小名浜港を国際バルク戦略港湾として整備するとともに、港と市街地の一体的なまちづくりを進めています。
  - ・アクアマリンパーク駐車場整備を完了。(H29. 3)
  - ・3号ふ頭地区の公園整備に着手（H29～）し、多目的広場及び駐車場を供用開始済。(R2. 3 現在)
- ◆小名浜港と常磐自動車道を結ぶ小名浜道路の整備に向けた取組を進めています。
  - ・全延長 8. 3km のうち 5. 4km の道路改良工に着手済。(R2. 3 現在)

県外からの視察団体の受入（R2.10.4 復興状況の説明）



#### ④ 浜通りの復興拠点地域としての整備促進

##### 【復興公営住宅整備】

- ◆原子力災害により避難を余儀なくされている方々等の安定した居住確保のため、いわき市内の復興公営住宅の整備に取り組んでいます。
  - ・整備完了 団地 1,672 戸 (R2.3 現在) ※他に保留 72 戸有り

##### 【復興まちづくり事業】

- ◆沿岸部の復興道路の整備を進めています。
  - ・全 9 工区完了 (R2.3 現在)
- ◆防災緑地の整備を進めています。
  - ・全 7 カ所完成 (R2.3 現在)

##### 【被災者・避難者支援】

- ◆避難者等と地元住民の相互理解・交流促進と地域コミュニティの維持・再構築を図るため、交流会の開催や被災者等と地元住民の交流活動に対する支援等を行っています。
  - ・いわき交流ひろば (R2.2.16) : 来場者 2,000 名、参加団体 (被災者支援団体等) 36 団体・組
  - ・いわき地域の復興と未来を担う地域コミュニティ形成事業 : 9 件採択 (R1 年度実績)



#### 地域の主な課題

#### 地域懇談会(地域住民)の意見

#### 今後の方向性

### 1 魅力あるまちづくりと地域資源を活かした産業創出・人材育成

中心市街地の活性化を図り、魅力あるまちづくりを進めるとともに、地域資源を活かした産業の創出及び振興、それに係る人材育成に取り組む必要があります。

・商店街における建物の家主と借りたい若手起業家をつなげる仕組み等、空き家等の活用について住民が話し合い計画的なまちづくりを進めることが必要。  
 ・商業を通したお金や税金などの社会の仕組みを勉強する機会を設け、若い世代を育てていくことが必要。

空き店舗を活用した魅力ある取組や若手起業家の創業を引き続きハード・ソフト両面で支援します。  
 また、いわきアカデミア推進協議会等の活動を通じて地元企業に対する若者の理解を促し、若い世代の育成に取り組めます。

### 2 風評払しょくと交流人口の拡大

震災後なお根強い風評が残り、観光交流人口が震災前の水準まで回復していないことから、正確で見える形での情報発信による風評払しょくと地域資源を広く発信することによる交流人口の拡大を図る必要があります。

・風評払しょくに向け、農業生産活動における各工程の記録等を通して食の安全安心を消費者に示していく取組が必要。  
 ・近場でお金を使うマイクロツーリズム等の観光ニーズを捉えるため、体験型の着地型観光を推進することが必要。

農林水産物における魅力向上や各種認証制度の周知、販売促進に向けて積極的な情報発信に取り組めます。  
 また、地域の魅力の再発見に取り組むとともに、関係団体を支援すること等により、交流人口の拡大につなげます。

### 3 被災者・避難者支援

いわき地域には双葉郡等から約 1.9 万人の方が避難しており、避難者及び地元住民等が共に生活している状況であることから、避難者と受入先住民の交流、相互理解の促進に取り組む必要があります。

・全ての復興公営住宅で設立が完了した被災者・避難者の自治組織における課題を解消し持続可能なコミュニティをつくるべく取り組むことが必要。  
 また、地元住民との相互理解の推進を図り、防災面等で協力できる関係づくりが必要。

関係機関の情報共有や連携をさらに密にし、コミュニティの運営と被災者・避難者の生活を継続的に支援することにより、多様化するコミュニティの課題に対応した取組を進めます。